

様式第1(第15条関係)

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回和泉市生涯学習推進委員会
開催日時	令和6年7月24日(水)15時00分から16時10分まで
開催場所	和泉市役所本館 3階 庁議室
出席者	【委員】 (順不同)森委員、千葉委員、門林委員、立石委員、吉岡委員、井上委員 【事務局】 大槻 教育長 辻 教育次長兼生涯学習部長 前田 生涯学習推進室長 橋本 生涯学習担当課長 和田 生涯学習担当総括主幹 堀田 生涯学習担当総括主査 仲 環境産業部 産業振興室 商工観光担当総括主幹
会議の議題	1. 教育長挨拶 2. 委員等紹介 3. 委員長及び副委員長の選任について 4. 報告 (1)「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」について (2)「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」の指標達成状況について (3)「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」の 重点取組について ①生涯学習ポータルサイト「ま NAVI」の運用開始について ②令和5年度いずみ市民大学の実績について ③令和6年度いずみ市民大学の事業予定について 5. その他
会議の要旨	・澤村委員を委員長に、井上委員を副委員長に選任した。 ・報告事項について、事務局から説明を受け、意見交換、質疑応答を行った。
会議録の作成方法	☐全文記録 ☒要点記録
記録内容の確認方法	☒会議の議長の確認を得ている ☐出席した構成員全員の確認を得ている ☐その他
その他の必要事項	会議公開・傍聴者なし

審 議 内 容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

（司会進行：事務局）

・事務局より委員会開催についての説明

本委員会は公開で開催すること、傍聴者がいないことを報告

・事務局より出席委員数の確認

委員総数9名のうち、出席者6名、欠席者3名となっており、和泉市生涯学習推進委員会規則第6条1項の規定に基づき、会議は成立していることを報告。

1. 教育長挨拶

2. 委員等紹介

3. 委員長及び副委員長の選任について

和泉市生涯学習推進委員会規則第3条3項の規定に基づき、委員の互選により、委員長に駒澤委員、副委員長に井上委員を選出。

（司会進行：井上副委員長）

4. 報告

（1）「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」について

「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」の計画期間や体系等について、事務局より説明

委員：重点取組の1つである「（仮称）北部総合スポーツセンターの整備」について、計画の内容や進捗状況を教えてほしい。

事務局：旧泉北水道企業団跡地を建設候補地として検討を進めており、令和6年度は、基本構想の策定に着手している。

委員：重点取組の1つである「いずみ市民大学の学部拡充」について、具体的に説明してほしい。

事務局：現在のところ未定である。

委員：重点取組の1つである「部活動指導者の人材育成」の「部活動指導者」とは。

事務局：中学校の部活動等の指導者を指しており、部活動の地域移行を進めるため、人材育成に取り組んでいく予定である。

委員：和泉市は、泉大津などの周辺自治体に比べ、体育館の空調設備・電気設備の整備が遅れている。整備計画について教えてほしい。

事務局：現在のところ、計画の策定はない。空調設備の必要性は認識しており、今後、利用者へのアンケート調査、整備に係る受益者負担について、整理する予定。

副委員長：自分は泉大津市の社会教育委員も拝命しており、同市の事情を知っているが、同市は施設の老朽化と人口減少に対応する形で、社会教育関連の施設の改修を行っており、和泉市とは人口規模が異なるため、和泉市が同様の対応を取るというのは難しい部分もあると思う。

(2)「和泉市生涯学習・スポーツ推進計画」の指標達成状況について

計画に位置づけている「目標指標」及び「進捗管理指標」の達成状況について、事務局より説明

委員:目標指標や進捗管理指標の増加の内訳や要因が分かれば教えてほしい。「地域文化財総合活用推進事業補助件数」とはどのような内容か。

事務局:1点目のご質問については、現状値が令和3年度の新型コロナウイルス感染症流行中の実績であるため、令和5年度は、実績値が回復しつつある状況。2点目のご質問については、だんじりの修理の補助を実施している。

委員:生涯学習施設の利用者数を目標指標として設定しているが、各施設に対する市民のニーズは異なると思うので、各施設の内訳や利用者の年齢層も示し、見える化してほしい。

(3)①生涯学習ポータルサイト「まNAVI」の運用開始について

生涯学習ポータルサイト「まNAVI」の運用状況等について、事務局より説明

委員:こども会も「まNAVI」を活用させてもらえるのか。今後の展開も含め、教えてほしい。

事務局:1点目のご質問について、こども会のイベントも掲載可能である。主催が公的機関か、内容が営利目的かどうかなど、特に制限はない。和泉市内で開催する生涯学習に関するイベントや講座であれば掲載可能としている。スポーツ系のイベントも掲載可能なため、体育協会やスポーツ推進委員の皆様にもぜひご活用いただきたい。2点目のご質問については、「まNAVI」のサイトで、和泉市で行われている講座やイベントがほぼ網羅されている状態にしていきたいと考えている。和泉市の公式Lineからも簡単にアクセス可能なので、ぜひ利用していただきたい。

副委員長:桃山学院大学のエクステンション・センター(社会人聴講制度や司書・司書補講習などを実施する機関)にも「まNAVI」のチラシを設置してほしい。

事務局:承知した。

委員:「まNAVI」の運用は、業務委託により実施しているのか。また、どこからアクセスがあったか(市公式Lineを経由するなど)や、どのような媒体(スマホなど)で閲覧があったのかなど、分析は行っているのか。

事務局:1点目のご質問について、サイトの運用は、業務委託により行っている。2点目のご質問について、現状の仕様では、そのような分析はできない状況。今年度より運用を開始し、運用面での課題も見えてきているので、費用面も考慮しながら、委員ご質問の点も含め、運用や仕様の見直しを図っていきたい。

委員:委託業務の中に、アクセス分析の業務が含まれていなければ仕方がないが、無料のプログラムでも、どういう人がどこからサイトを閲覧しているのかというのは分析可能なので、活用してはどうか。また、利用促進に向けた意見として、和泉市社会福祉協議会 和泉市障がい者基幹相談支援センターが運営する「ココスル」というWEBサイト(障がいがある方の福祉に関する情報や暮らしに役立つ情報を発信するサイト)にリンクを貼ってもらってはどうか。

事務局:現状の仕様でもアクセスの属性などの確認ができる部分があるかもしれないので、事業者を確認する。また、「ココスル」については、リンクを掲載してもらえるよう、担当課と調整したい。

委員:「まNAVI」のサイト開設について周知があった時に、子どもが小さい時にこのサイトがあったらと感じた。もう一つ欲を言えば、サイトから講座に申し込みができればより便利だと感じた。今の世代は、電話が苦手だったり、面倒だと感じる人がいるので、予算面の問題はあと思うが、より便利になると思う。特に、市が主催している事業は、サイトから申し込めるとより便利だと思う。

事務局:まずは、情報の充実に取り組み、予算的な問題もあるが、長期的には、サイトから申し込みができたり、マイページから自分の受講記録を確認できるなど、サイトの充実を図っていきたい。

委員:「3. 運用状況」の登録数は、教室の登録数という認識でよいか。

事務局:サイトに掲載されている教室やイベント数である。

委員:いきなり教室に入会するのはハードルが高いと感じる人もいるので、体験入会や体験イベントを設定してもらうなど、募集側にも働きかけが必要では。

事務局:委員のご意見のとおり、教室や団体に直接的な働きかけが必要だと考えている。団体の会議に出席し、サイトのPRを行うほか、イベントの様子や講師の写真を掲載してもらい、雰囲気をつかんでもらいやすいよう工夫することで、サイトを見た人が気軽に参加できるよう、募集側にも働きかけていきたいと考えている。

(3)②令和5年度いずみ市民大学の実績について ③令和6年度いずみ市民大学の事業予定について

令和5年度いずみ市民大学の参加者数や内容、令和6年度いずみ市民大学の事業予定について、事務局より説明

委員:申し込み方法について、直接窓口へ持参する方法や郵送に限っていて、ギャップを感じた。

事務局:参加者が高齢の方が多く、ネット申し込みができないのかなどの問い合わせをいただいている状況。今後、検討していきたい。

副委員長:市としては、幅広い世代が申し込んだり、情報にアクセスできる状態にしなければならないので、すぐに変更することは難しいと思うが、市民のニーズに応じて方策を検討してほしい。

委員:広報紙など、紙媒体を廃止していく議論もあるが、その前に、スマホやネットなどの使い方をレクチャーしていく場が必要だと感じる。

事務局:市でも、シニア向けのスマホ体験講座などを実施しており、今後もそのような取り組みを進めていきたい。

副委員長:和泉市は歴史や文化財に力を入れているので、教養学部内に、学芸員など専門職職員による常設講座を設置してもよいのではないか。

5. その他

委員:公募委員が欠席とのことだが、事前に意見聴取をするなどの取り組みが必要ではないか。

副委員長:できるだけ様々な視点から、幅広いご意見をいただくことは必要。事務局で、できるだけ多くのご意見をいただく方法を検討してもらえたらと思う。

委員:生涯学習・スポーツ推進計画がめざす将来像は、今ある団体などに加わり、つながりができ、そこから広がるという視点だと思うが、今ある団体同士がつながり、広がるという視点も必要ではないか。各団体で技術不足や人不足の課題を抱えており、団体同士が一致団結し、それぞれの得意分野を活かすことで、広がっていくと思う。こども会における子ども同士のつながりだけでなく、高齢者とのつながりという意味でこども会と老人クラブとのつながりも大切だと考える。

(司会進行:事務局)

・これをもって、令和6年第1回生涯学習推進委員会を終了する。